

日本海洋学会 2016 年度第 3 回幹事会議事録

日時：2016 年 7 月 11 日（月）13：30～18：00

会場：東京大学本郷キャンパス理学部 1 号館 843 号室

出席：日比谷会長、神田副会長、石坂、市川、伊藤、小埜、小畑、川合、齊藤、鈴木、東塚、原田、山中、毎日学術フォーラム（小野、平坂）

議題：

1. 審議事項

(1) 議事録承認（川合幹事）

2016 年度第 2 回幹事会議事録案を確認し、承認した。

(2) 入退会について（小畑幹事）

2016 年 4～5 月の入退会を承認した。入会 32 名、退会 3 名。2016 年度 4 月末の会員数 1652 名。

(3) シンポジウムの後援・共催等について（小畑幹事）

3 件の後援・共催について承認した。

(4) 募集・推薦等の依頼（小畑幹事）

公募・推薦 8 件、シンポジウム・講演などの案内 3 件について、ML 配信その他の対応を行ったことが報告され、承認した。また、東京海洋大学長より青い海助成金寄付についての礼状が届いたことが報告された。

(5) 「一家に 1 枚」ポスター企画委員会設置の提案について（伊藤幹事）

「一家に 1 枚」は、文科省が作製・配布しているポスターシリーズで、毎年新企画の募集が行われている。来年度「海」に関するポスターの企画提案を行うため、『一家に 1 枚』ポスター企画委員会を設置することが、教育問題研究会から提案された。ポスターデザインなどを含めた具体的提案書の作成を目的とする。

会務を行う組織である「委員会」ではなく、「WG」を設置することを承認した。

WG メンバーは教育問題研究会からの自薦 5 名に若干名を加え、世話人を伊藤幹事とすることとなった。

(6) 日本海洋学会企画本「海の温暖化」への日本海洋学会からの補助について（原田幹事）

第 2 回幹事会から継続審議となった日本海洋学会編「海の温暖化」への補助について、各都道府県の SSH 校に寄贈するための予算 22 万円を補助してほしいとの説明があった。東京大学海洋アライアンスによる補助の可能性を検討し、それでも必要であれば広報活動の一環として日本海洋学会が支援することとなった。

(7) JO 特別セクションについて（石坂編集長）

「Special Section on the Cooperative Monitoring Program of Ariake Sea」の企画が提案され、承認した。ゲスト編集委員会が受理の判断を下した後、JO 編集委

員が最終確認を行うことを確認した。

(8) 日本海洋学会海洋生物学研究会の設立について（齊藤幹事）

第2回幹事会で提案され継続審議となった「海洋生物学研究会」の設立について、改訂した会則案が示され、海洋生物学シンポジウムの開催、講演会・講習会等の開催、国内外の学・協会との連携などを行うことを目的としたものであるとの説明がなされた。研究会員は日本海洋学会員に限ることとし、承認した。研究会の設立と会長の任命については秋の評議員会での審議事項となる。その際、発起人グループによる提案書を提示する必要があることを確認した。また、指摘された箇所を修正した会則案を幹事会 ML で回覧することとなった。本研究会担当幹事を齊藤幹事とした。

(9) ジョイントシンポジウムについて（神田副会長）

本年度3月開催予定の日本海洋学会・日本プランクトン学会・水産海洋学会のジョイントシンポジウムについて、会場手配などの諸手続きを円滑に進めるため、また具体的な運営方法を明確にするため、各学会から事務担当一名を決め、連絡し合うことが提案された。日本海洋学会では齊藤幹事が担当となり、他学会については会長から問い合わせることとなった。

(10) 2017年度春季大会について（日比谷会長）

JpGU-AUG 合同大会に合流して開催する2017年度春季大会について、大会実行委員会を関連業務担当幹事および学会選出連合プログラム委員の計7名で構成し、原田幹事を実行委員長として秋の評議員会で報告することとなった。任期は3月末までで、4月以降は新幹事会に引き継ぐこととなる。

合同大会に関する日程が決まり次第、原田会員から会員向けに案内を配信すること、提案予定のセッションの情報を提供してもらい、必要に応じて類似セッションの合同開催提案や一般セッション提案を行うこと、日本海洋学会提案のセッションは少数の会場で連続してプログラム化されるよう要望を出すことを決めた。

また、総会会場は無料で確保したが、日程は未定であること、各種委員会開催については1月にアンケート調査を行う予定だが、有料となるため、セッション会場で昼休みに開催する、大部屋を区切って使用するなどの工夫が必要であることが報告された。

2. 報告事項

(1) 会長（日比谷会長）

日本海洋学会・日本プランクトン学会・水産海洋学会のジョイントシンポジウムについて、来年度3月21-22日、東京海洋大学品川キャンパスにおける開催が決定したこと、鹿児島開催される秋季大会に31のセッション提案、315件の発表申し込みがあったこと、育志賞推薦を行ったこと、文部科学大臣賞の推薦候補者を決定

したこと、日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会から、「我が国の海洋科学の推進に不可欠な海洋研究船の研究航海日数の確保について」の報告書が公開され、研究航海日数の減少に対策を講じる必要があるとのメッセージが発信されたことが報告された。

(2) 副会長（神田副会長）

防災学術連携体が 12 月に開催するシンポジウムで、安田珠幾会員が講演予定であること、東京海洋大学において「海洋資源環境学部」が来年 4 月に新設されること、秋季大会期間中に若手との意見交換会を行う予定であることが報告された。意見交換会については学会 ML で会員全員に配信することを確認した。また、文科省による教職課程の認定に際し、高等学校学習指導要領において海洋学が「水産」に含まれているため、「理科」ではないとの意見があったことが紹介された。

(3) 庶務（小畑幹事）

本年度発行の会員名簿への広告出稿依頼を関連企業に送付すること、その際 2017 年度春季大会では日本海洋学会独自の広告掲載や機器展示を行わない旨周知すること、WEB 会員情報サービスの利用を開始したこと、地学オリンピック講師の依頼があり教育問題研究会から市川会員を推薦したこと、大会要旨集の著作権についての問い合わせがあり著者に直接問い合わせるよう返答したことが報告された。

(4) 編集

① JO（石坂編集委員長）

JO を順調に発行していること、3 件の転載を許可したこと、掲載取り消しが必要な論文 1 報について、10 月号で retraction note を掲載する予定であること、新たに発表されたインパクトファクターが 1.270（前年 1.271）であったこと、short contribution の規定変更について、8 月号に案内を出し、10 月 1 日以降の投稿に適用することが報告された。

② 海の研究（市川編集委員長）

発行状況ならびに次号以降の準備状況が報告された。

(5) 研究発表（鈴木幹事）

鹿児島で開催される秋季大会について、大会実行委員会の尽力により順調に準備が進められていること、利用者が少ないため大会参加費のコンビニ払いを今回で取りやめることが報告された。

2017 年度秋季大会は、10 月 13 日から 17 日に仙台国際センターで開催されること、シンポジウムの開催場所は東北大学青葉山キャンパスであること、大会実行委員長：花輪会員、副委員長：市川忠史会員、事務局長：須賀会員であることが報告された。2018 年度以降の秋季大会開催場所については検討中である。

(6) 選挙（山中幹事）

2016 年度選挙の予定について、具体的な日程が報告された。

(7) 広報委員会（原田委員長）

講師派遣事業が順調に開始され秋季大会中に講師向けインストラクションとして情報交換会を予定していること、秋季大会期間中に若手向けイベント（キャリアパス支援ブース、ナイトセッション「海洋学を活かせる進路について」）、セッションハイライトのプレスリリースを行うことが報告された。

(8) 環境委員会（鈴木幹事）

青い海助成事業について、緊急提案型の応募を随時受け付けていることを会員に周知したこと、2015年度の助成事業報告をウェブに掲載したことが報告された。

(9) 教育問題研究会（伊藤幹事）

夏の学校、地学オリンピック講師派遣、教員免許新講習、東京都教職員研修、秋季大会でのポスターイベント、セッション、シンポジウム、サイエンスカフェ、サイエンスアゴラへの参加予定について報告がなされた。「海のやくわり」の单元提案について、9月の水産学会で市川会員が説明を行う予定である。

(10) 日本地球惑星科学連合（原田幹事）

JpGU2016年大会では、セッション194（うち国際セッション63）、発表論文数4515件、参加者数7240人であったことが報告された。2017年のJpGU-AGU Joint Meeting大会は5月20～25日に幕張メッセで開催予定、2019年までは幕張で、2020年の大会は横浜で開催予定。

(11) 日本科学振興財団（日比谷会長）

日本海洋科学振興財団の理事改選があり、新体制が決まったことが報告された。

(12) ブレークスルー研究会（小畑幹事）

秋季大会において広報委員会主催のナイトセッションをブレークスルー研究会が共催することが報告された。

(13) 水産・海洋学研究連絡協議会（伊藤幹事）

11月18日に日本学術会議食料科学委員会水産分科会公海シンポジウム「成熟社会における持続可能な水産業のあり方とその中長期戦略」を開催予定であることが紹介された。

(14) 若手支援（神田副会長）

若手武者修行セミナーの応募について、周りの若手への周知依頼があった。

(15) 海洋観測ガイドライン編集委員会（河野編集委員長代理小畑幹事）

ガイドライン英語版の作成準備中であることが報告された。

次回幹事会：9月開催予定